

スミちゃんの韓国イヤギ⑮～

「どの国にもある悲しい歴史」

先日は、以前からずっと見たかった韓国映画を2つも見ました。私が行った映画館では韓国映画が3つもやっていて、さすが冬ソナからスタートした韓国への関心を肌で感じたものです。

私の見た映画は「シルミド」と「ブラザーフッド」という映画でした。その映画の内容は、どちらも冬ソナとは違う韓国歴史での傷が生々しく描かれているものでした。私は異国で見る自分の国の痛々しい話に、ずっと涙を流しながら見ていました。ちょうどその時は、イラクからの派兵撤退を要求するイラク武装勢力に一人の韓国人が殺された悲報があった直後で、全韓国国民が悲しみに沈んでいる時期だったし、また偶然にも、韓国戦争があった「あの日(1950年6月25日)」のあたりでしたので、映画から思い出される悲しく切ない響きはもっと大きくなったのかもしれません。

「シルミド(島の名前)」という映画は1968年から1971年まで韓国で実際にあった話に基づいています。国家によって養成された北朝鮮への北派工作員の部隊が南北関係の変化により、捨てられる危機に遭ってしまい、その部隊員たちがシルミドから脱出して、奪取したバスで青瓦台(韓国の大統領の官邸)に向う途中、自爆したという悲劇的な事件を映画化したものです。今までこの悲惨な事件は、冷戦時代の恥部として、長い間、知られていませんでした。そして、生存者も証拠もほとんどないということで、最初と最後の部分以外は、ほとんどが作られた話です。韓国の歴史の中ではこういった話を話題にすることさえもできなかった時期があったので、映画化までされたこの映画を見た私は「韓国の映画はここまで来たか」という思いで胸が一杯になりました。

もう一つの映画は「ブラザーフッド(韓国タイトル:太極旗を翻して)」という映画で、韓国戦争を背景にして、戦争場での兄弟愛と家族愛・同僚愛などをテーマとしたものです。韓国映画「シユリ」の監督と二人の大人気俳優の共演ということで、撮影時から韓国内でとても話題になりました。この映画は、製作にも丸一年かかり、公開されてからはたくさんの韓国の国民を泣かせました(観客は1000万人を超えた)。韓国国民は、同じ民族なのにお互いに対して銃を狙いつけた切ない過去の歴史と今も二つになっている祖国のことを思いながらみんな涙を流したことでしょう。

映画を見た後、「微妙だな～」という感想を持った日本人にも、ずっと泣きながら見ていた日本人にも、そして町民の皆さんにも私から伝えたいことが一つだけあります。この映画で出てくる深い傷を抱えている韓国も、今話題になっているヨン様の韓国も、全部ひっくり返して本当の韓国の姿であります。そしてこれからも、もっとたくさんの人からもっと多様な韓国の姿を知ってもらいたいというのが私の小さな願いです。これからもありのままの韓国をよろしくお願いします。

日本では8月15日が終戦記念日です。韓国も、日本も戦争のことを忘れずに歴史を振り返って正しく理解することは大切であり、また知る必要があると思います。私はこの二つの映画をきっかけに改めて悲しい歴史である戦争のことについて考えました。皆さんも今一度戦争のことについて考えてみてはどうでしょう。

(淀江町国際交流員 李秀美)

◎クイズ「これなんだかいなあー?いま・おかし⑤」は、10ページをご覧ください。

これ何なんだかいなあー?いま・おかし⑤の答え

答え—これは今からおよそ1,800年前、弥生時代の住居のあとです。平成8年度に妻木晩田遺跡で発掘されました。この頃の日本の住居のようすは中国の記録に残っており、もう少し後の時代には銅の鏡などに描かれています。「たて穴住居」と呼ばれる、地面に穴を掘って屋根をかけた住居です。夏涼しく冬暖かい構造になっています。この住居の床にある穴は柱を建てた穴で、4本柱から5本柱に建て替えられています。同じ遺跡から発掘された焼けた住居跡などの例から、屋根に土をのせた構造だったと考えられます。

